

## 蝶ヶ岳 夏山診療所医療ボランティア



2015年8月21日(金)雨 8月22日(土)小雨のち夕方から晴れ 8月23日(日)晴れのち曇り  
メンバー:神谷(単独)

### 山行報告

#### 第1日目

三股駐車場にAM3時に到着。70台駐車可能な駐車場には10台ほど停まっていた。車の中で仮眠する。AM5時過ぎ「いちっ、につ、さんっ、しっ！みんな声がちいさー——い！」と準備運動の大きな掛け声で目が覚める。外を見渡すと小雨ですすでにみんな合羽に身をまとい出発モード。大声で準備運動をしていたチームと一緒に診療所で働く名古屋市立大学医学部の学生さんたちで、他の医療スタッフたち(友人の医師&看護師含む)も各自準備を整えてすでに出発するところであった。1時間以上遅れて私も出発する。今回2回目の蝶ヶ岳診療所ボランティア参加のため昨年と同じルートを通ったが、単独で山に登る事自体初めての経験。雨だけど登山客もいないのでルンルンしながら登る。1時間後まめうち平前で、1時間前に出発していた友人2人組に追いつく。彼女たちは久しぶりの登山&雨で相当疲れていたの、私が二人の荷物を持つと促すも「今は大丈夫。それよりちゃちゃっと山頂診療所まで行って学生ポーターに迎えに来てもらえるように言ってくれる？」と頼まれた。しかしこのあとから雨が強くなり悪路も続いたため、なかなかスピードが上がらない。1時間半後、標高2500m、診療所まで残り1kmの地点で、朝準備運動をしていた学生チームに追い着く。学生ポーターが必要なことを説明すると、5年生の男女二人が彼らの荷物を別の学生に預けて颯爽と友人を迎えにいった。つい先ほどまで彼らも登ってきた悪路を大雨の中さわやかな笑顔で再び下山していく姿に若さと青春が感じられた。



蝶ヶ岳ヒュッテTシャツにもなっている通称ゴジさん



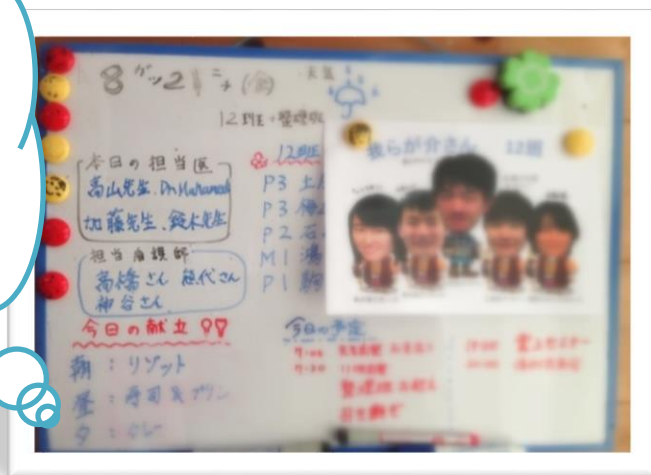
まめうち平。  
雨がひどくなる・・・



今夏、単独下山中の60代女性が残念ながらこの付近で心肺停止で亡くなりました。

ようやく稜線に出る。昨年は稜線に出た瞬間壮大な美しい槍穂連峰が見渡せたのだが、今年は真っ白で横から強風と雨が私の体を打ち付ける。診療所のあるヒュッテについたとき、体は冷え切っており、手指末端は感覚麻痺が生じていた。2時間後に学生さんに荷物を持ってもらった友人2人がヒュッテに到着。1人は完全に低体温状態。3時間半で来た私ですら感覚麻痺があったので6時間以上かけての登山なら低体温になっても仕方ない。ヒュッテ隣にある冬季小屋の1階の炊事場で学生さんが温かい飲み物と手巻き寿司を作って待っていてくれた。まさか山頂で生のお魚が食べられるとは。ヒュッテにはヒーターがついておりみんな冷えた体を温めて談笑していた。登山客は少なめ。この大雨の中登ってくる人はいないだろう。この日は朝に2人だけ診療所で診察したとのこと。午後からは一人も診療所には訪れず。ダラダラヒュッテの中で過ごす。夜は学生さん手作りカレーライス。そして同じこの日登ってきたK先生から飛騨牛の差し入れがありモリモリ食べる。激ウマ。お寿司に続き飛騨牛も食べられるなんて。働いていないのにすみません。罪悪感。しかも温かい布団のなかで一度も呼び出しされることなく熟睡してしまった。

名古屋市立大学  
診療班の部員数  
はなんと120名！  
12班&整理班は  
みんな明るく協調  
性がある真面目  
な優等生でした♪



飛・騨・牛



手巻き寿司を自炊系の1年生が一生懸命作ってくれました。しかし先輩から「こーいう寒い日は寿司より温かいものにしてよねー」と厳しい指摘が！！

一日の終わりに検尿用紙コップで乾杯☆

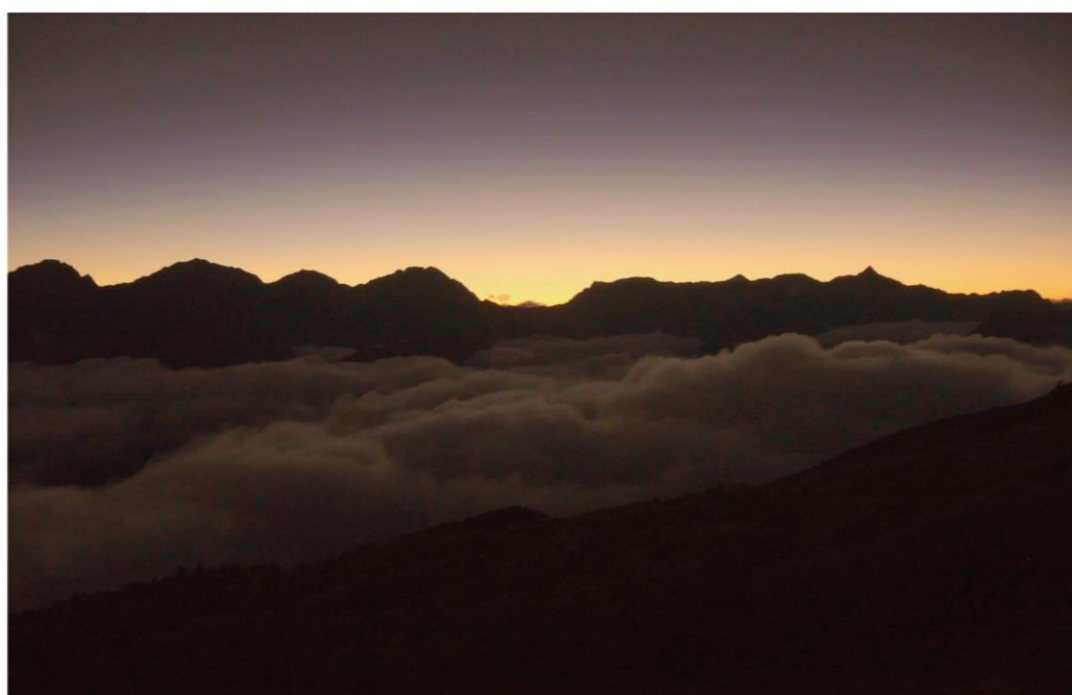
## 第2日目

朝から小雨。2日目は天候・時間・待機の医療スタッフの人数など状況を見て常念岳までピストンを考えていたが、視界も悪く断念。診療所には誰も人は来ず(良いことであるが)。室内でダラダラ過ごすのは私には苦痛すぎる。動きたいのにやることがない。PM3時から晴れ間がでるようになりヘリコプターが食材や物資搬送でヒュッテを5往復することになった。目の前でヘリを見てテンションあがる学生さんたち。「若いなあ～」と学生さんを眺めるおじさん化した自分がいた。夕方からガスが少しずつとれて穂高岳と槍ヶ岳がついに現れる。日没後は神秘的な光景であった。一気に雲がなくなり満天の星空。昨日の時点では今回は展望は無理かもと半ば諦めていたが昨年到现在に続き美しい景色を見ることができ嬉しかった。

毎年、蝶Tシャツやパーカーを作成。  
今年のパーカーは蝶可愛い♪



ヘリ登場に盛り上がる学生さんたち



幻想的な日没後の槍穂の影と雲海



### 第3日目

下山日。そしてこの診療所がこの日が最終日。私たちは別件があったため8時30分からの閉所式には参加せず6時30分に下山開始する。朝食の準備も見送りも不要とあらかじめ学生さんに伝えていたが、彼らはおにぎりを用意してくれていた。そして総勢20名の学生さん・スタッフに見送られる。快晴で槍穂も常念もすごく綺麗。私はすこし大回りして常念岳・前常念岳を經由して三股に戻ることにした。事前にスタッフから詳しく情報や注意点を聞いていざ出発。左手には美しい槍穂連峰。周りに登山客もいないので絶景を独り占め。途中から大天井岳や常念岳から下山してくる登山客に出くわす。「一人で登ってきたの？」とびっくり顔で言われるので始めは「蝶ヶ岳の診療ボランティアに参加して今日は常念を經由して三股駐車場に戻るところです。」と返事していたがさすがに10人以上から同じ質問されるとうんざりしてきて「はい。単独山行です。」とだけ返事するようになる。全然珍しくないのに～！あんなに快晴だったのに8時からガスってきて常念岳山頂についたときは真っ白で展望ゼロになっていた。



診療所を出発するとき、みんなでお見送りしてくれました。  
医師4名・看護師5名・学生12名  
たくさんの楽しいメンバーと充実した時間を過ごせました。

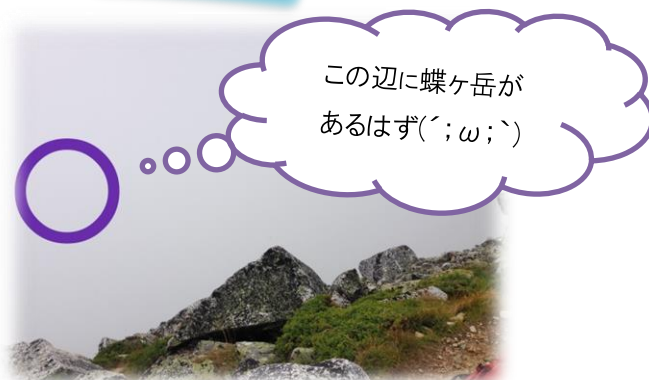


左には槍穂連峰



右には常念岳

## 単独登頂デビューはまっ白ガス世界



難所はないが常念から三股の区間は登山客はほとんどいないため、転倒や怪我に細心の注意を払いながら下山。正午ピッタリに三股駐車場に疲労ゼロで無事到着。コースタイム10時間15分のところを5時間30分(休憩含む)で回る。三股駐車場には閉所式を終えて下山してきた先生や学生さんたちに会い、キャーキャー大騒ぎ。私と同じ6時30分に駐車場へ直接下山をしていた友人2人組は体調不良&足の痛みで5時間かけて下山したようで彼女たちともまさかの再会を果たす。初日はガラガラだった三股駐車場は満車で路駐している車も多数あった。帰りは安曇野蝶ヶ岳温泉「ほりで一ゆ〜」により、大好物の「さかた」のおやきをGETして帰路へつく。

### タイム

#### ◎第1日目

三股駐車場(06:40)—三股登山口(06:50)—まめうち平(08:20)—蝶ヶ岳ヒュッテ(10:25)

#### ◎第3日目

蝶ヶ岳ヒュッテ(06:30)—常念岳山頂(08:40)—三股・常念小屋分岐(09:00)—前常念岳(09:32)—三股登山口(11:51)—三股駐車場(12:00)

### 感想

蝶ヶ岳は昨年に続き2回目の参加。富士山8合目の救護所を入れて合計6回目の救護所ボランティアであるが今までの中で1番何もしない救護所生活だった。学生が12名もいて問診・測定・処置の準備・片付けなどほとんど彼らがしてくれる。しかも彼らは患者に対して丁寧に対応して非常に優秀。看護師は点滴入れるくらいしか仕事はない。私の滞在した間に診療所に来た患者は10名のみ。それに対して医師4名・看護師5名・学生12名。総合病院の救急外来より充実している人員。学生の作る美味しい料理を食べ、昼間は綺麗な槍穂パノラマを、夜は満天の星空を眺め、ぐっすり温かい布団で寝る。ただの観光になってしまった。富士山は医師1名・看護師1名・学生2名で構成され48時間で50名近くの患者を診る。しかも深刻な高山病や外傷も多い。山によって疾患や救護活動の内容が違うので他の診療所にも今後参加していきたい。槍ヶ岳は忙しいようなので来年はそこかな??

## ■名古屋市立大学蝶ヶ岳診療所



名古屋市立大学蝶ヶ岳診療所は北アルプスの中部山岳国立公園蝶ヶ岳にあり、1998年度に設立されて以来スタッフ並びに学生が毎年夏の1ヶ月の開所期間に交代で診療所に滞在し診療活動を行なっている。蝶ヶ岳ヒュッテ内に診療所が併設されている。スタッフとして医師・看護師・薬剤師だけでなく救急救命士や理学療法士も参加し、医学部・看護学部・薬学部の学生も参加している。27年の診療活動には67名(+α)のスタッフと99名の学生が参加した。

### 医療費の無料化

高山病による死亡事故を予防する啓蒙活動を推進するためにすべての医療活動は無料。寄付金(チップ)は受け付ける。

### 診療時間

診療時間として厳密な時間は設定しない。受診患者が午後5時前後から急増するため医療スタッフは夕方は診療所近くに待機する。基本24時間少なくとも1名は診察室に学生が交代で常駐。受診患者がない場合には、医師に所在を明確にした上で、自由に時間を活用できる。

### 遭難事故、重症例

ヒュッテから離れた山岳地帯で遭難事故が発生したような場合には、二重遭難の危険性があるので、原則として診療所に待機。重症患者をヘリコプターで搬送する必要があると判断した場合には、ヒュッテ駐在の救助隊員を通じて長野県警ヘリコプターまたは長野県広域消防隊の出動の依頼。遭難事故救助の場合には、搬送料金は現時点では請求されていないが、将来的に患者自己負担が検討されている。



### 学生の診療実習範囲

学生は予診聴取、診療班カルテ(医師記入指定部分以外)記入、呼吸数、脈拍数、血圧測定、体温測定、検尿、心電図検査などの範囲で実習を行う。ただし投薬、点滴注射などの医療行為は行なわない。薬剤やガーゼなどの管理と補充を行う。学生は診療所内に24時間待機し早朝や夜間でも患者を受け入れる体制を整える。また、診療所の周知や体調不良者の早期発見を目的として登山者に対して声かけ運動も行う。学生や医療スタッフが講師となりヒュッテ内でセミナーも行う。「高山病の予防対策」「外傷の対処法」など登山に役立つ話題を取り上げ、登山者との交流や安全登山の啓蒙に努める。(開所期間中ほぼ毎日午後7時から1時間食堂でセミナーとその後に血圧や血液中の酸素飽和度測定を行う)

### 医師不在時の対応手順

ネットワーク医療:ネットワークを介した遠隔地医療の通信装置(スカイプ)を利用して医師の指示がある場合には、看護師や薬剤師が現地に居る場合に限って薬剤等の処方ができる。

### 開所期間7月19日～8月24日に診療所を受診した患者について受診時間及び傷病名

受診者合計は約160名であり16歳から70歳代で40歳以上が全受診者の約70%。時間別受診者数は、登山者が山頂を出発する午前6時と山頂に到着する午後5時にかけての2相性を示しており逆に午後12時前後及び深夜0時前後の受診者数は極端に少ない。疾患の内訳は外傷・整形外科疾患が全体の25%、高山病と虫刺症を合わせて40%ついで消化器疾患10%であった。また過去4年間の患者数は平成24年は220名、25年は209名、26年には129名、27年は160名。

(平成26年は過去三年間で特に天候が良くなかったため登山者数の減少が患者数の大幅な減少に反映したと考えられる。)

※今年分のデータは8月23日夕方の時点で、私個人でとった集計のため正確さは欠けます※



## 診療所の中



心肺停止時にも  
対応できる機材・  
薬品も準備されて  
いる！



一人の患者さんに対し  
て学生一人が問診、も  
う一人が体温など測  
定。そのあと医師によ  
る診察が始まる。

あまりに優秀な学生さんたちに私はいつもびっくり。

毎晩、ヒュッテ食堂で学生による山岳セ  
ミナーが開催。たくさんの宿泊客が聞きに  
来てくれる。



名刺サイズのカードを  
登山客が増える夕方に  
外へ出て登山客に配  
布。診療所の存在を知  
ってもらい小さな異常  
や困ったことあればい  
つでも来るように説明。